

## 【学生による ESD 学習支援】

### 奈良市立富雄第三小中学校 第2回ユネスコ委員会 支援報告書

心理学専修1回生 坂本 晃徳

1. 実施日 令和元年5月29日（水）
2. 場所 奈良市立富雄第三小中学校
3. 参加者 山本健太（学部2回生）、吉田柚季、山口竜輝（学部1回生）  
富雄第三小中学校 教員、中学生 約20名
4. 活動支援内容

令和元年5月29日、富雄第三小中学校にて第2回ユネスコ委員会が行われた。今回は、初めに今年度の活動目標を設定し、昨年度に引き続き、「富三からつながる世界平和～みんなの力で笑顔への第一歩～」に設定された。その後、国際交流班とビオトープ班の2班に分かれ、それぞれが活動を行った。今回の活動内容は、両班ともに今年度に行うおおまかな活動の決定、および活動の計画について話し合いを行った。

今回の活動支援より、以下の2点について考えた。第1に過去の経験を生かすことについて、第2に生徒の視点についてだ。

まず、第1に過去の経験や体験を生かすことについてである。私が担当した国際交流班では、これから何をするかを考える際に、過去の活動の記録を用いて計画をたてている生徒たちの姿が見受けられた。ハロウィンやクリスマスなどといった例年の行事に加え、ハリソンスクールに対し去年は手紙を出していたが、今年はテレビ電話で直接話し合おうという意見もあり、今までの取り組みを踏襲しつつも新たな試みがみられた。この新たな試みは、ユネスコ委員会が今まで積み上げてきたものがあるからこそ生まれるものであり、今回初参加だった私自身、こうした挑戦こそが新たな礎となっていくのではないかと考えさせられた。

第2に生徒の視点についてである。国際交流班での今回の活動は、今年度の見通しを立てることが主であったためか、新年度となり新たに入ってきた生徒たちに、昨年度に在籍していた生徒たちが今まで行った行事の概要を伝えながら意見をだしあっていた。そのような中で、七夕を新たな行事としてやってみようという案がだされた。外国に向けて日本の伝統行事や文化をアピールしつつ、逆に外国の文化を知る機会であることが国際交流班の行事に必要な要素であり、これを満たす案として七夕を挙げる生徒の柔軟でかつ新鮮な視点到驚かされた。こうした視点こそが、ESDを実現するその原動力となるのではないだろうかと考えた。

今回の支援を通して学び、考えたことはこの2点である。この活動支援に初めて参加したが、ESDについて考える生徒の姿勢を知る貴重な機会であった。この富雄第三小中学校のユネスコ委員会の支援では、生徒たちとかかわることで、生徒たちの新鮮な視点や気づきを通して、生徒の成長を見られるだけでなく、私たち学生にとっても良い学びの場となる。非常に有意義な活動支援になるため、今後も引き続き支援に参加していきたい。



話し合う生徒たち